

特定非営利活動法人 日本スポーツ栄養学会 第6回大会報告

寺田 新（東京大学 大学院総合文化研究科）

2019年8月23～25日に東京大学駒場Ⅰキャンパスにて日本スポーツ栄養学会第6回大会が開催されました。予想を遥かに上回る1,300名を超える方々にご参加いただき、また一般演題も初めて100演題を超える（105演題）など、とても熱気・活気のある学会大会となりました。

初日は、大会長講演に引き続き、樋口満先生（早稲田大学名誉教授）による特別講演が行われました。樋口先生には50年間にわたるこれまでの研究活動を振り返っていただくとともに、日本のスポーツ栄養界を今後担っていく若い世代に対するメッセージもお話しいただきました。



第1会場前の看板（初日）



樋口先生による特別講演

2日目以降は、教育講演、シンポジウム、共催セミナーなどが多数開催されました。第6回大会では、著名な先生方による講演をじっくりと聞いていただくために、教育講演を多く設けました。

一般演題では、「実践活動報告」部門を新たに設置しました。実践活動報告部門では、全ての発表の終了後にフロアで自由にディスカッションをしていただく、という形式をとりました。どのセッションでも活発な議論が行われ、お互いの経験や疑問を共有できる良い機会になったと思います。



実践活動報告 発表後のフリーディスカッション風景

本大会では、初の試みとして託児所を開設しました。利用者はそれほど多くはありませんでしたが、学会大会は年1回の貴重な機会ですので、少しでも参加しやすいような仕組みをこれからも作っていく必要があると感じています。

総会において、津田とみ先生、樋口満先生、八木典子先生が名誉会員となられることが承認され、閉会式で名誉会員記の授与式が行われました。



奨励賞 表彰式



八木先生 名誉会員記授与式

学会大会に関しては、「講演を聴講して、情報をインプットする場」というイメージを持たれている方が多いと思いますが、情報を得るだけではなく、自分が持っている経験・疑問をアウトプット（提供・共有）することで、学会全体がレベルアップします。特に、現場での実践活動の中で得た経験・知見はとても重要で貴重な情報です。今回、実践活動報告部門で発表された方から、「学会発表が初めてでしたが、発表することで色々な人から意見も聞いたり、ディスカッションしたりすることができてとてもよかったです。」という感想をいただきました。これこそが学会大会の醍醐味です。発表に向けて準備することや発表で質問やコメントをいただくことが最も有効なインプット方法です。来年の仙台大会（2020年7月4～5日、大会長：藤井久雄先生）では、さらに一般演題、特に現場からの実践活動報告が増えて、研究と実践の両面からスポーツ栄養の科学的基盤が構築されることを願っています。

今大会では、見通しが甘く会場が大変混雑し、ご不便ならびにご迷惑をおかけしましたことをこの場をかりてお詫び申し上げます。最後になりましたが、多大なるご支援・ご協力を賜りました企業・団体、そして参加者の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。